

日本建築文化史事典 トピックス 古代-2021

日外アソシエーツ 編

A5・510頁 定価15,180円(本体13,800円+税10%) ISBN978-4-8169-2893-2 2021年9月刊行

その時代を代表する建造物、法整備、住宅問題、賞情報など2,500件

- 古代から2021年までの、日本の建築文化に関する出来事2,532件を年月日順に掲載した年表事典です。
- 7世紀前半の法隆寺の建立、春日大社など神社の造営、中世の築城、茶室や書院、赤坂迎賓館、鉄骨や鉄筋コンクリートの近代建築など主要な建築物から、建築基準法の公布や改正、耐震構造技術の進歩、主要な建築賞などについて記述。日本の建築文化の流れを俯瞰的に理解することができます。
- 「分野別索引」「地名索引」「人名・団体名索引」「事項名索引」付き。

■ 収録トピック例 ■

法隆寺金堂再建／伊勢神宮造営／吉崎御坊建設／犬山城、天守造営／日本橋初の架橋／桂離宮造営／鹿鳴館竣工／工部大学校設立／日本銀行本店竣工／同潤会設立／新日本建築家集団設立／建築基準法公布／建設省設置／東京タワー竣工／丹下健三死去／シンドラー社製エレベーター事故／東京會館新館開場／日本建築学会各賞 など

内容見本

1168年
(仁安3年)

この年〔寺社〕**巖島神社社殿造営** 巖島神社社殿が造営された。古来より神聖視された広島県廿日市市の宮島(巖島)にあり、創立は593年と伝わる。平安時代末、平清盛の庇護を受けて社殿が造営され、大鳥居の方角から見て中央に本社、東に摂社客神社、西に能舞台を配した現在の構成に整えられた。本社と摂社客神社はいずれも本殿・幣殿・拝殿・祓殿などからなるが、摂社客神社の方が規模が小さい。現在の主要社殿は1241年に再建されたものだが(本社本殿は1571年)、平安時代末の造営時の形式を踏襲している。本殿は切妻屋根の前方と後方の庇を伸ばした両流造りで、屋根上に千木と鯉木がない。幣殿は両下造。拝殿

1904年
(明治37年)

この年〔技術・資材〕**石綿スレートが日本に初めて輸入** 石綿スレートは1900年にオーストリアのルードウィヒ・ハチェックによって石綿セメントが開発されたことに始まり、1904年に日本に輸入された。1914年に日本国内でアスベスト入りの小平板の製造が開始され、1923年の関東大震災後の復興時にはトタンが不足したことで石綿スレートの需要が拡大した。また戦後、1950～60年代に入ると比較的薄手の住宅用化粧スレートが登場し、プレハブ住宅産業の興隆とともに普及した。

1954年
(昭和29年)

4.7〔人物・団体・組織〕**伊東忠太死去** 建築家、伊東忠太死去。1867年生れ。東京帝国大学を修了後、同大助教授、教授を経て、のちに名誉教授。法隆寺を現存最古の木造建築として建築史上に初めて位置づけ、さらに各時代の建築を研究し日本建築史体系を樹立。また造家学を建築学に改称することを提唱した。また古建築の保存にも尽力。代表作は平安神宮白虎楼(1895)、明治神宮神殿(1920)、震災記念堂(1930)、築地本願寺本堂(1934)など。建築界から初めて文化勲章を受章した。

2018年
(平成30年)

この年〔寺社〕**興福寺中金堂再建** 奈良県にある興福寺の中金堂が再建された。創建から6回の焼失・再建を繰り返していたが、1819(文政2)年に仮堂を再建して以降老朽化が進んでいたため、2000年に解体。その後、2010年の立柱式などを経て、再建落慶を迎えた。寄棟造、単層裳階付き、本瓦葺など創建当時の様式で復元している。

2021.8

お問い合わせは… **日外アソシエーツ 営業局**

TEL.03-3763-5241(代) FAX.03-3764-0845
〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 <https://www.nichigai.co.jp/>

■ 貴店名

注文書

日本建築文化史事典
一トピックス 古代-2021

定価15,180円(本体13,800円+税10%)
ISBN978-4-8169-2893-2

冊



9784816928932